

週日の説教

金 大烈 神父 2011年4月1日(金)

《恵が一番溢れる時》

《ミサ前に》 今日とは癒しのミサです。自分が本当に癒されたいのは何か、何処が痛んでいるかを考えてもらいたいです。何回も強調して申し上げていますが、全てのことは心から来ます。「何事があっても心を失わないように強めて下さい。」という気持ちでこのミサに与りましょう。

皆様、一年中で一番恵が溢れる時期が四旬節と、待降節だと昔から言われています。逆に言うとも一番誘惑が多く、そして悪魔に負けてしまう時期でもあるわけです。例えば皆様が、朝起きて出来るだけ笑顔で「神様を賛美しながら今日一日委ねます。」と言った簡単な祈りさえ、あるいは、今まで捧げていた祈りさえやりたくない気持ちになるようなことはありませんか。今まで作ってきた関わりでも、その人に会いたくない気持ちになるとか、なんでもない些細なことに腹を立てしまったとか。それは自分が悪くてそういう気持ちになることではありません。それは悪魔の誘惑であり悪戯です。ですから教会はこの時期に特に「断食」や「節制」を進めているわけです。いつも気をつけながら精神をちゃんと自分達なりにそういうことから負けないように頑張らなければなりません。多くの私達の先輩が話してくれたことです。皆様も心当たりありませんか。「そういえば私、この頃何か訳もないのに気持ちが悪くなって落ち込んでいる」そう思われる方いらっしゃるでしょう。ですからこの四旬節が恵が溢れる時期であることを自覚して、それを得るために私が何をしなければならないかと意識しなければならないと思います。残りの日々は腹を立てないで下さい。がっかりしないでください。人のことを責めようとしないで下さい。もう一度自分を立て直して、祈りに力を注いで下さい。それが何よりも必要だと思えます。

さあそれでは、私が今上手く生きているかどうか、今このまま死んでしまったら「天国に行けるか」、「地獄に落ちるか」の基準は何でしょうか。簡単です。それは今日の福音です。まず「心を尽くして精神を尽くして、全てを尽くして神様を賛美しているのか。」そして、出来るだけ色々な弱さを持っていることを認めながら、自分なりに隣人のために心を注いで生きているのか、それを考えたら直ぐに分かります。

皆様自信がなくなっていましたか？（はい、と答えて皆が苦笑した）この二つの掟については逃げ場がありません。一生懸命ミサに与って信仰の生活をしてきたかどうか大事なことです。そのような信仰の生活をやって来たと言えれば、その人は神様を愛して来たのでしょう。隣人に対して何とかしなければと、いつも心を配ったのでしょう。全部つながっています。

さあ、もう一度考えてみましょう。私はどうなっているのか、どのように生きているのか、自分のことばかり考えて本当にしなければならないことを忘れていないのではないかと。

ありがとうございました。